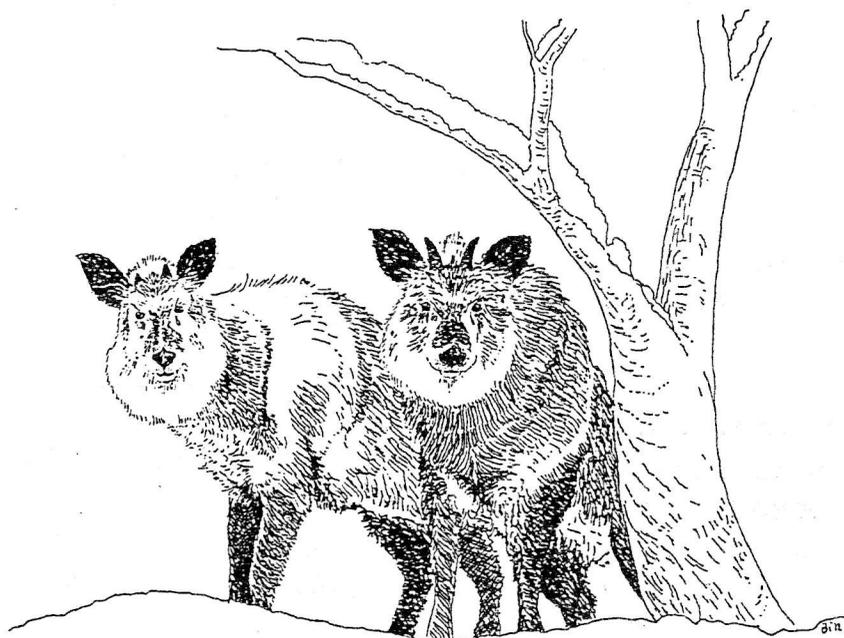


やまぎと

会報6号 (96冬号)



金沢大学ワンダーフォーゲル部・OB会

OB会会長の挨拶

13期 大島 良治

皆様、明けましておめでとうございます。
「一年の計は元旦にあり」といいますが、どのような夢、または目標を、この新春に抱かれましたでしょうか。

私共の金大ワンダーフォーゲル部OB会が発足して、もう4年の歳月が過ぎました。特に際

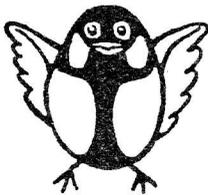
立った活動もなく、申し訳なく思いますが、まずは会の継続こそ最大の目標と考えています。

今年の一年の計としては、山小屋周辺、そして思い出の高三郎登山道の整備に、昨年以上に力を注いでみたいと考えています。OB諸氏の援助を切にお願いする次第であります。

金沢城跡の懐かしい部室もなく、私共に現在あるのは、山小屋と高三郎山です。金沢を離れてまだ一度も山小屋を訪れたことのない方も多いと思いますが、どうぞ今年の計の一つに「ベルクハイムで、昔からの友と語る」

をお加え下さい。OB会は全力でそのような方の夢を実現させていただきます。

話題を変えまして…。金沢の人口は約40万人と、昔からあまり変わっていないものの、街の中心の県庁は、数年後、駅西に移転します。既に金沢大学も角間山中に移転しており、街の中は非常に淋しくなりつつあります。夜の香林坊・片町も昔のような酔っぱらいは皆無で、お金のない若者がたむろする町となり、夜の商売もバブル崩壊から立ち直れないまま壊滅状態という噂です。兼六園と、武家屋敷、片町の飲み屋



21期 竹中 Bin

紅葉のはっぱもだいふ散ってしまいました。もう冬も、すぐそこまできました。お元気ですか。

先日は、本を送っていただき、ほんとうにありがとうございます。会社の行き帰りの電車の中で読んでいます。北陸の広々とした平野の向こうに横たわる山々の姿が目につかびます。こちらの方は山が近すぎて、広々とゆったりした空間がなくて、息がつかまるような感じがします。やっぱり空は広い方がいいなあと思います。

大聖寺にある片野鴨池という所に、冬になると冬鳥がいっぱい渡ってきます。冬の雪のある時に何回か見に行ったことがあります。

何万羽というカモ達が休んでいます。オホーツクの方からやってきたオジロワシも一羽いました。そいつが飛ぶと、カモ達が恐れて、一斉に飛びたったりします。

夕方きりあげて、大聖寺の駅へむかって歩きます。高速道路の下をくぐって田んぼの広がった空間に出た時、目の前に、赤く染まった雪をかぶった白山がそこに連なっていました。曇もなく、晴れた冬の日でした。しだいに紫色になり、とっぴりと日が暮れた頃には、白い白山に戻っていました。忘れられない光景でした。

に城跡の金大…そんな金沢らしさがどんどん失われているような気がいたします。「金沢に新幹線を通す」「能登に空港を作る」と、土建業者の喜ぶことばかりが政策で、昔ながらの金沢らしさを大切に作るビジョンが示されないのが残念です。

皆様、我々の青春時代の金沢は、段々面影もなくなりつつあります。懐かしくお思いの方は、金沢の町を早く訪れ、険に刻み直されてはいかかでしょうか。

皆様方にとって素晴らしい年でありますようお祈りして、筆をおきます。



イラストのコピーを送ります。コピーで申し訳ありませんが、OB会報でなくても何か用途があったら使って下さい。また、知らせてくれれば書きますので、連絡待っています。

(編者注；35周年記念誌の編集の時、「誰か表紙の絵を頼める人はいないかしら？」で、楯さんに紹介してもらったのが、21期 竹中 敏さんでした。「自然人」のイラストレーターが、ワングルのOBであったことを、この時に知りました。

彼はNaturalist Network Nagano や日本野鳥の会諏訪支部支部報「いわすずめ」のイラストも担当しておいでです。

大江 健三郎氏以来「癒し」はキーワードになりました。これらのイラストから受ける私のイメージも、「自然の癒し」なので、皆様はいかがでしょうか？楳文以上に自然保護を訴えかけてくる絵の力に、感嘆してしまいます。

ただ、編集上は、全体構成の中でのあくまでイラスト扱い…余白もへったくれもなく、非常に申し訳なく思っています。

OBの皆さんにお目かけられるだけでもと、編者は開き直っていますが、皆さんは、イラストはイラストで、どうかゆっくりご観賞下さい。)

OB会役員会の活動経過 とOB関係情報

(#は日の確定していないもの)

- 8月13日 会報5号製本済(久富)
15日 発送(舟田)
- 9月5日 小屋作業打ち合わせ
(大島 辰野 舟田 椿川 岡部
川本 後藤 西田 阪本)
- 9日 小屋作業援助金(50000円)渡す
- 9月12日 山小屋酒場参加者へ案内送付(舟田)
- 20日 資材ポート搬入(椿川 大島)
- 21日 第2回OB小屋作業(16名参加 のべ
(16名参加 のべ36名)
現役小屋作業(26名参加)
- 22日 山小屋酒場隊入山・現役下山
- 23日 OB隊下山
- 9月25日 スポーツ振興課へ作業報告
- 29,30日 13期同期会(能登島)
- 10月7日 小屋番田村氏下山
- 14日 OB会役員会通信N025発送
- 23日 スポーツ振興課より補助金残額入金

- 24日 OB会役員と現役3回生の懇親会
(辰野 上馬 舟田 北川 久富
鳥越 名倉 38期西馬 39期6名)

11月3,4日 15期同期会(清里、小諸)

- 22日 スポーツ振興課に押印書類完納
- 25日 現役に補助金30万円振込(鳥越)
- # 名簿、宛名ラベル作成(名倉)
- # 会計報告、発送人ラベル作成(鳥越)
- # 一言通信葉書、寄付依頼作成(坂尻)
- # 会報印刷(中川)
- # 製本手配(北川)

コリハズク



*今年度、高三郎登山道整備作業につきまして、30万円の補助金があり、現在現役に全額が渡っています。

*来年度につきまして、すでに同額の補助金を約束いただいています。

これについて、5期稲葉さんから、同窓会のおりさらに課長に根まわしいただきました(もちろん自腹飲食)。また舟田も、迅速な報告と、全山金沢市にありゆたかな自然を誇る高三郎山・その登山道を維持する者は金大ワンゲルしかいない旨の陳情とに努めました。

*こんな補助金に限らず、先手をうったり人脈を活用することで、ずっと安全になったり、便利になったり、すっと道が開けてくることあるのではないのでしょうか？

*まずは一言通信で、ご健在ぶりをアピールして下さい。

来春の山小屋酒場案内をご希望の方は、一言通信はがきの指定欄に○をつけて、ご投函下さい。

参加希望者からの返信

*吉本 良治 13期

9月22日夕方または23日早朝に入山します。21日22日は出勤予定ゆえ。

*吉田 穂積 13期

*上馬 康生 15期

ご苦労様です。尾瀬へ行ってきました。家族4人で、御池-尾瀬沼-燧ヶ岳-尾瀬ヶ原-三条ノ滝-裏燧-御池のコースで。キスゲ、ワタスゲともみごとでした。

*松林 知一 15期

ワイン酒多飲日記を拝読しているうちに参加の思いがこみあげてきました。実際に行けるかどうかはギリギリまで分かりませんが、何とか万難を排して、差し入れを持って、田村先輩のお顔を見にいきたいと念じています。「やまざと」楽しく拝見しました。ありがとうございました。

*舟田 節子 15期

「山岳警備隊出動せよ！」(東京新聞出版局)に蒲原さんの事故が載っています。あれから、部室へ貼紙に行くまでの2ヶ月…が遠巡しぬいた日々でした。もし立たなかったら…ワングルなんて青春の約3年間にすぎなかった。人生はおもしろい。おもしろくするもしないも、本人次第だよ…我孫子の横井さんの仏壇に、そう語りかけてきた今年の夏。

*岡部 伸一 18期

仕事の都合で参加できなくなる場合もあります。

*椿川 利弘 18期

*鳥越 伸博 23期

仕事の都合で非常に流動的です。一応、22日の日帰りもしくは23日朝までとしておいて下さい。

参加日程に変更があった場合、すぐに連絡します。

*山本 英男 37期

みんなに会えるのが楽しみです。



非参加者からの通信

*鈴木 兵一 3期

高三郎山は30数年前に藪をかき分けかき分け登ったなつかしい山です。三日間雨にあい、倉谷の部落にとじこめられて、部落の人々の温かい心にふれました。残念ながら参加できません。少しですがお金を同封します。登山道整備に使って下さい。

(登山道整備大変ですが、頑張ってください。参加できず申し訳ありません。医王山の山道作りの苦しかった事、楽しかった事を今思い出しています。)

*森島 稔 4期

毎回ご案内をいただきながら、参加できず申し訳なく思っています。

会報は隅々まで読み、田村兄の若さに感服しています。私もサムエル・ウルマンに傾倒して？十年！兄のご健勝を祈ります。

*亀田 武 5期

残念ですが参加できません。楽しい集い、楽しい作業、そして楽しいお酒になりますよう念じています。

*金岩 孜 5期

やまざと5号をお送りして頂きありがとうございます。OB会行事になかなか参加することができず申し訳ありません。皆様のご健勝を祈っています。

*大崎 進 6期

「やまざと」の愛読者です。

*合津 尚 6期

しばらくは下界の仕事場—酒場のサイクルをくり返すことになりそうです。

*四十万 利之 7期

「やまざと」の中になつかしい人達の名前を見つけ、いつのまにかニヤリと笑いながら読んでいる自分に気がきました。催しに参加出来ませんが、酒場の大繁盛を祈ります。

*榊原 恒昭 8期

KUWV 8期前後の皆さんは、特異な、又、活発な人が多かったと記憶しています。その人達の一言通信が少なくて残念。年齢的にも余裕が出てきた頃と思います。KUWV時に戻った一言を願いたい。

*篠島 益夫 8期

田村先輩のベルクハイムでの晴耕雨読と哲学創造のワイン酒多飲日記を読ませて頂き、その生活に得難い植打を感じています。続編の掲載を希望します。

*清水 一 9期

やまざと5号ありがとうございました。いつの日か作業に参加したいと思っています。会の盛會を祈っています。

*平村 耕作 9期

やまざとありがとう。山小屋が整備されて見違えるようになったとのこと、1年前の「月見の宴」を思い出します。9月に参加できなくて残念だけれど、次の機会に「山小屋酒場」に行きたいと思います。

*島林 仁司 10期

田村さんによろしく。10月の終わり頃には訪問の予定。来年5月には、又山小屋酒場でお会い

しましょう。

*小山 清 11期

やまざと5号興味深く読ませていただきました。編集委員の方々大変御苦労様です。6号を楽しみにしています。

*青柳 健二 11期

ますます内容充実の「やまざと」を感涙しながら読了しました。「ワイン酒多飲」大先輩の「万有斥力」論完成に乾杯!!あくなき真理追求への情熱に感嘆しつつも理論的には???ですが、その至福の刻が共有できる倉谷ユートピア計画に期待しています。

(山小屋酒場は残念ながら参加できない。皆様特に田村先輩によろしく)

*矢崎 利哉 11期

カネはあれど体力なし。体力あれど暇はなし。暇はあれど気力なし。もう少し参加させてもらうのはお待ち下さい。

*南 梅子 13期

いつもやまざとをありがとうございます。連絡遅くなりまして申し訳ありません。日程調整がつかなくて、今回は失礼致します。当日は関東へ出掛けていて石川県を留守にします。その一週間後、同期会があるので、山小屋での話など聞かれたら、と楽しみにしています。無事、有意義な小屋作業になることを願っています。

(今回お送りいただいた「やまざと」盛り沢山の内容で楽しかった。特に田村さんの山小屋日誌に感動!)

*清家 雅幸 14期

やまざと5号楽しく読ませていただき、皆様の御苦労に感謝しています。せっかくの機会ですが参加できなくて残念です。次回には高三郎に登頂できるようトレーニングしておきます。



*坂尻 忠秀 15期

5月晴のもと、懐かしい倉谷で仕事をするもよし、酒を飲むのもよしという第1回の小屋作業が大変楽しいものであっただけに、9月もと思っていたのですが、地区の祭礼のため残念ですが不参加とさせていただきます。

*金井 澄 15期

田村先輩の痛快きわまりない山小屋日記を繰り返し読んでいます。是非とも大先輩の教えをいただきたく思っていました。日程の調整がつかず、また次の機会に。

*大家 慎一 17期

遠方の故なかなか行けなくて残念です。山小屋酒場とはとてもしゃれていますね。高三郎のピークはどんなだったか、思い出そうとしています。思い出せません。住所と電話が変わりました。

*横井 恒雄 18期

楽しそうですが行けそうにありません。OB会幹事の方いつもありがとうございます。そしてご苦勞様です。

*佐野 吏 19期

OB会報により皆様との距離が縮まった気がします。お手伝いできませんがガンバッテ下さい。

*難波 利行・清芽 25期・26期

いつかきっと参加します。「コンポストイレ」詳しいこと知っている方、是非教えて下さい。

(ひょっとしたら、山小屋便所の改善策になれるかも?)

*外村 雅治・美佳 26期・27期

会報をいつも楽しく読ませていただいています。何分遠いので参加はできませんが、懐かしく思い出しながら応援いたしております。よろしくお願ひします。

*塚原 由紀子 27期

いつも会報をありがとうございます。幼い子供がいるため、今回は参加できませんが、何年後かに参加できたらいいなと思っています。事務局の方々、本当に御苦勞様です。

*沖田 直久 31期

*金田 学 34期

返事遅くなりました。今回は私用があり参加できません。また機会があれば行きたいと思っております。

*石川 明弘 36期

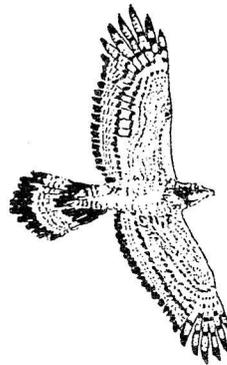
就職先、何とか決めることができました。初めは東京で研修です。業種はコンピューター関係です。「東京でなじめることができるか」が、第一の関門です。

*藤牧 康子 37期

今回は残念ながら参加できませんが、次の機会があれば是非参加したいです。

*新堀 由佳 37期

返信遅れまして申し訳ありません。仕事の予定がたちませんので、不参加とさせていただきます。それにしても卒業してから「やまざと」を読むと、編集の方々、頭に下がるばかりです。



8in

ハチクマ

ワイン酒多飲日記IV

3期 田村 昭夫

7/22 (月) 曇時々雨

8時半頃小屋を出て金沢の街に出る。ダム添いの道で川の様になっている箇所があるのでダム側に流れを変える作業を行った。ダム事務所で鹿野教授夫人と彼女の友人に出会う。三人一緒に自転車を連ねて街下る。小立野でお二人に別れ舟田女史宅へ行く。小林宅に預けてあった寝袋を持って天神橋詰の常宿に行く。

午後10時頃、学習塾の授業を終えた舟田女史がビールとつまみ持参で我が一夜の宿をたずねてくれた。30分程雑談して彼女は帰宅した。浅の川を渡ってくる涼しい風を満喫しながらこの日誌を書く。夜中豪雨に見舞われた。

7/23 (火) 曇時々雨

7時半頃舟田女史に挨拶に行ったが、まだ鍵がかかっていた。小屋に3時頃帰る。これ書いて寝る。

7/24 (水) 快晴

羽場さんのテント小屋は撤収されていた。木製の棚と真空包装されたコンブとアワビの佃煮が置いてあった。ごっつあんである。佃煮を着て今夜も酔いしれん。豊かなり。限り無く豊かなり。今夜から蚊帳を吊る。完全なり。安眠疑いなし。Gute Nacht!

7/25 (木) 快晴

午前中コンクリート壁に金色スプレーをかけた。あと2本不足なので街に買いに出る。途中丸太運び。家族が2日に金沢に出てくることになったので、駅近くのホテル「キバヤシ」を予約した。常宿となった無料休憩所で泊まる。

7/26 (金) 曇

帰途、駒帰から「少年の森」に行った。縄文時代の生活から山村農業、炭焼迄体験出来る素晴らしいサバイバル教育の施設があることを知



った。これをこの倉谷で実践せぬ法はない。時はめぐり繰り返される。農協でフランスワインを買う。今宵も一人酒宴を張る。

7/27 (土) 快晴

朝、京都から来た子連れ釣人と会う。小屋に遊びに来るようにと云っておいた。聖書によると「神の国への招待は全ての人になされるが、それに値する人は極めて少ない」とある。4時半頃京都の人達三人が小屋を訪ねてくれた。中学の理科の先生だった。例によって私の弁舌はとどまることを知らず。しかし大学で応用物理を専攻した先生もなかなかやる。ビールで盛り上がった。久し振りに楽しい夕べであった。

7/28 (日) 晴

午前中はダムサイト方面の遊歩道整備。午後医学部6年生朝日君(ワングル36期)とその友人が小屋を訪ねてくれた。昨日から岩魚釣に倉谷川上流に入っていた由。ワインで雑談。これもまた楽し。小屋番冥利につきるとはこのことか。

7/29 (土) 快晴

今日は小屋から出ずに聖書や他の本を読んで過ごす。このような天気の下遊歩道にも出なかったのは珍しいことだ。理由は朝から酒を飲まなかったからだ判明。夕刻、最後の1本に手をつける。やはり俺の活動の源は酒だったのだ。「一隅を照らす」意味も広義に解釈すれば

この小屋に暮らしているだけでも世間に何らかの影響を及ぼすことになりはしないか。あの小矢には酒と安らぎがある…と皆が訪れる。「桃里不言 下自成溪」と古人が云った様に。俺はこの地に骨を埋める。

7/30 (火) 晴

午前中聖書研究。午後金沢に下る。浅の川右岸の公園にて泊まる。只今午後10時半。川面を渡る夜風が心地よい。月は満月に近い。

7/31 (水) 晴

午後3時頃小屋帰着。やはりこの小屋に来ると落ち着く。小屋が我が家のように思えるようになった。小屋に対する愛情である。オロロが出てきた。小屋迄くっついてきた奴ず、裸になった途端キン玉にちくりとやりやがった。キン玉ごとたたきつぶす。

8/1 (木) 晴

朝7時河原へ洗濯物を持って出た途端、オロロが8月の解禁を待っていたとばかりに集団リンチを加えてきた。さすがの俺もまいった。洗濯物を持参して小屋へ逃げ帰った。「夏場はお前などの住む所じゃない。倉谷の厳しさを知らせてやる」と私に教えてくれたのかもしれない。俺は甘かった。倉谷の良い面ばかりを見て天国だなどとほざいていたのだから。家族が来るのを機会に、オロロがいなくなるまで金沢か会津に疎開することにした。

したがってBergheim日誌は中断します。

(7月15日、私は田村さんからの御要望をうけて、春の小屋作業宿泊者に倉谷での還暦祝の案内を発送しました。8月はじめのお誘は無理ではと思ったのですが、前田顧問、大島会長はじめ13期の方々が出向いて下さることになり、私は友人との北アへ出発。

8月3日、下山。旅装もとけないうちに、さっぱり街着の先輩の登場。倉谷をひきあげ、今晚リリーマルレーンでの還暦祝いのみとするからとのこと。一安心ながら、辰野さんの用意されたケーキは、別のお口に入ることになってしまいました。

そんな急な変更でのリリーマルレーンへは、前田顧問、12期大出さん夫婦、鹿野教授夫人、が集い、ご家族と酒宴を張りました。鷹揚な奥様、美人姉妹と好青年の三人のお子さん達。常識の枠におさまらない大先輩は、実に多くの好人物に恵まれた幸せ者と思えました。)



オオワシ (ワシタカ科)